

令和5年度第3回防災プロジェクト会議

日 時	令和6年2月13日（火） 午後2:00～午後4:00
場 所	アミューあつぎ ミュージックルーム1
出席者	厚木市社会福祉協議会 厚木市障害者福祉事業連絡会 みんなのみらい （特非）ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸 （株）BISCUSS 生活介護ajito （社福）野百合会 指定特定相談支援事業所「まゆみ」 （社福）すぎな会 すぎな会生活ホーム 厚木市障がい福祉課 厚木市障がい者基幹相談支援センター（敬称略）

1. 開会

総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

- ・資料確認（次第、名簿、防災対策チェックリストの修正箇所、防災対策チェックリスト修正案、修正前、啓発チラシ、神奈川工科大学の研修会アンケート、施設資料、来年度の取り組みの事前アンケート、防災センター見学の資料、石川県のお知らせ）
- ・挨拶

議事進行 (社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム

2. 議題

(1) 防災対策チェックリストの検証について

(資料 防災対策チェックリスト、修正版、修正箇所、啓発のチラシ参照)

厚木市障がい福祉課

ロールプレイの後の修正内容を元に、防災対策チェックリストの修正を行った。

【防災対策チェックリスト修正箇所】

- ・静かな環境や一人の場所が欲しいなどは、で行った方が良い。
⇒ 旧チェック3を新チェック2で該当するところにを入れる。
- ・チェックリストの簡易版の項目の中に『支援者をお願いしたいこと／特性・障がい名』とある。しかし、書いても地域の人にはわからないのではないかと。具体的に『話すことが苦手なので声掛けしてください』と書く方が良い。(疾患名は、支援者はわかるが、地域の人にはわからないのではないかと)
⇒ 簡易版にもチェックを入れる予定である。
- ・避難行動要支援者名簿に登録していますかという項目を作成してもいいのではないかと。
⇒ その他の項目で一番最後にご存知ですかに止めている。
- ・避難所でお願ひしたいことは、裏面より表の方が見やすい。安否確認(連絡先を記載するところ)は裏面でよい。
⇒スペースの問題で表面にした。スペースはそんなに要らないと思い、少なくした。
- ・防災対策チェックリストとして、質問に対して、入れ込む形ではなく、質問の文字の大きさを変えたり、質問と答えを分けたりすると良い。(ワクチン接種の問診票のように)
⇒チェック6の非常持ち出し品は、準備できていますか?項目の頭をそろえることにした。
- ・防災対策チェックリストに切り込みを入れて、障がい、アレルギー、介護が必要など紙の切り込みの形でわかるようにする。
⇒そもそもこれを使ってくれる方は、障がいのある方である。全員に向けて行うチェックリストではないので割愛させていただいた。

【その他の問題点】

なかなか防災対策チェックリストが普及しないのは、チェックリストそのものではなく周知の問題なので来年度でも話し合う内容だと思っている。

以前から、厚木市ホームページで防災対策チェックリストをダウンロードできるが、なかなか周知が行き届いていないと課題が上がっている。配布するとなると、手引きも含めて、20枚位ある。印刷するのもなかなか大変で、本人や事業所が必要な分だけ印刷してもらいたいと思ひ、防災対策チェックリストのチラシを作成した。二次元コードがついていてホームページに飛ぶようになっている。

意見交換

- ・見やすくなった。改善されたポイントもチェックで答えられると言うのも書きやすい。取り組み易さが増えた。(社福) 野百合会 指定特定相談支援事業所「まゆみ」

- ・避難場所でお願ひしたいことがチェックで分かり易い。ご存じですかの案内(チラシ)も良い。身体障がいの方等、『トイレありますか』と基本的なことが知りたくなる。防災対策チェックリストを作成しておくことで、自分の避難場所がわかる。避難場所を確認するまではしないので、受付で確認すると思う。どういう風に確認すれば良いかなと思う。車椅子用トイレは、全部あるわけでない。(株)BISCUSS 生活介護 ajito)
- ⇒そこで、防災対策チェックリスト作成するとともに、日頃からあいさつを交わしたり、地域の防災活動に参加したりするなど、繋がりや付き合いの輪を広げておきましょうとチラシに書いた。輪を広げて、防災訓練に参加をして、施設にトイレがあるのか、主体的に動いてもらうと良いのかも含めて書いた。具体的にどう書けば良いか。(厚木市障がい福祉課)
- ・車椅子の人は、環境を確認したいと思う。具体的に書いておかないと避難所に行った時にそういった質問になると思う。(株)BISCUSS 生活介護 ajito)
- ⇒逃げる場所の確認をしておきましょうというニュアンスがはいると良いのか。(厚木市障がい福祉課)
- ・自主的に自助の部分で行うのであれば、そういうニュアンスがあると良い。確認に行けるかということもあるが、行けなくて在宅避難になる。記入例に電源がありますかというところがあったと思うが、東日本大震災の時は、電源を各自で必死に探したと言っている。(株)BISCUSS 生活介護 ajito)
- ・地域との繋がりがあって、直接見に行けなくても、『避難所に車椅子用のトイレは、ありますか』と聞ければよい。地域との繋がりで聞ける環境を整えていく。普段から、あそこの避難所はどうだろうという意識がつけば良いと思う。(厚木市障がい福祉課)

司会(社福)すぎな会 すぎな会生活ホーム

在宅で暮らしている方が、実際どこに逃げて、どこが避難所だということがわかっているのか。

- ・うち事業所は、防災対策チェックリストを作成しているのだから、わかっている。(特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸)
- ・うちも昔、防災対策チェックリストを作成したが、自治会に加入していない人もいる。避難所のリストを見て、初めて見る感じだった。(株)BISCUSS 生活介護 ajito)
- ・普通の方がどのくらい知っているのかということもある。(社福)すぎな会 すぎな会生活ホーム)
- ・見やすくなったし、チェックする項目は、そんなに変わっていない。書くことが苦手な人が多いので、チェックが良い。精神の方は、自分のことを言えない人はいない。チェックリストの簡易版を常にカバンに入れているが、新しいものでやり直す必要があると思う。チェック3のあなたの安否確認をしてくれる人は誰ですかのところの行数が多いと埋めなくてという意識が働くのか友達まで書いてしまう。今回修正をした方が書く欄が少なく良い。(特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸)
- ・最初から、優先順位の番号をふってしまえば良いかも知れない。(社福)すぎな会 すぎな会生活ホーム)
- ⇒優先連絡先の番号をふっておくことにする。(厚木市障がい福祉課)
- ・チェック2の誰と行きますかについては、独りでという人もいる。(厚木市障がい福祉課)
- ⇒いる、いないでチェックを入れ、いる場合は()をつけて書いてもらう。
- ・チェックは助かる。備考みたいところがあると良い。うちの事業所だと記入するのは、親御さんになる。細かく書いてくると思うのでスペースがあると良い。(みんなのみらい)
- ⇒苦手な事があるの()の下にその他で()を追加する。(厚木市障がい福祉課)

- ・チェック1のその他気を付けてもらいたいことのアレルギーがありますは、生命の危機があるのであえて設けているとわかったが、幅が狭いのではないか。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ⇒アレルギーがあるか、ないかチェック入れて、もう少し幅を広げる。(厚木市障がい福祉課)
- ・前回のロールプレイの際、避難所でお願いしたいことが、最初裏面だったので、途中でようやく知って対応しづらかった。表面の中心にきたので、その場で対応できる。見やすくなった。これ自体を民生委員や地域の人は知らないと思うので、チラシがあるとさらに良いと思う。(厚木市社会福祉協議会)
- ・チラシについては、二次元コードにかざすとホームページに飛ぶものを準備した。他に吹き出しのバージョンもある。(厚木市障がい福祉課)
- ⇒二次元コードを読み込まない方のためにURLアドレスも載せる。吹き出しバージョンも検討する。

(2) 神奈川工科大学共催による研修会の振り返り

(資料 神奈川工科大学共催研修のアンケート、神奈川工科大学キャンパス地図参照)

厚木市障がい者基幹相談支援センター

令和5年11月17日に神奈川工科大学で研修会が行われた。当日は、雨で気温も低く、想定していたものとは違った。当事者5名、支援者11名うち事務局5名で計16名の参加であった。荻野地区に事業所のあるヴァルトハイム厚木、井泉憩いの家、ハートラインあゆみの三事業所からご参加いただいた。神奈川工科大学のキャンパスのK3号館を中心に見学させていただいた。ここは、一時避難所として想定されていて、実際避難されてきた方を受け入れるところになるので、その中の教室や非常用の備蓄倉庫にどんな物を見学させていただいた。その後、実際にご参加いただいた方と防災対策チェックリストの作成を行った。

アンケートにも書いてあるが、あまり意識していなかったことを改めて勉強できた。チェックリストについては、日頃から準備していくことの大切さを改めて感じた。みんなで防災チェックリストを作成してみたいと感想をいただいている。この研修もそうだが、ひとりひとりの意識をどうやって養成していくか、研修に参加した人がどういった気付きをもって、次に繋げていくのかというのが、神奈川工科大学の意図になるかと思うので、次年度も是非続けていければいいなと思った。

意見交換

- ・実際の避難先の一つとして設備とか、いろいろな部分を見させていただいて、とても勉強になった。自分の事業所に持ち帰り、こういった取り組みをしていると共有をさせていただいた。自分自身の災害に対する意識の向上の良い機会となった。(社福)野百合会 指定特定相談支援事業所「まゆみ」
- ・もう一度きちんと見たいという声もあった。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)

(3) 次年度の取り組みについて

(資料 出欠票回収による事前アンケート、神奈川工科大共催研修のアンケート参照)

厚木市障がい者基幹相談支援センター

意見交換

- ・そもそも防災プロジェクトの目的は、地域づくりの視点から、障がい者の防災時における地域の防災について検討を重ねている。共助からもう一度自助に力を入れ、障がい者の防災に対する意識の向上と普段から地域と繋がる接点をどうもつか、災害に向けて平常時から準備していくことを目指すということが目的で、このプロジェクトは開催されている。

令和5年度第3回防災プロジェクト会議

その視点にたち、今年度は、防災対策チェックリストの改訂と神奈川工科大学の研修を行った。(厚木市障がい福祉課)

- 実際に役に立つことであれば、当事者と一緒に避難所に行き、避難所を知ってもらおう。告知だけでは、どこまで実際に動けるか。周知だけでは、実際は難しい。(社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)
- 防災対策チェックリストは、なかなか浸透していない印象があるので、これは続けて啓発していかなければならない。それにプラス地域との繋がりをどう持つかであるが、こちらも何年か取り組んできたが、障がい特性から、一人でなかなか地域の避難訓練には参加できないのでせめて事業所の地域にある自治会と連携を図ってもらい、事業所のイベントに地域の人を呼び、障がいの理解の取り組みを地域の事業所に進めてくださいと呼びかけたこともあったが、具体的にはなかなか難しい。石川県の能登半島沖地震があったが、私たち支援者が日中いるところで災害が起きれば良いが、支援者の出勤前や休日、夜間に災害が起きると、地元の人と協力して避難生活を送らなければいけないので、やはり地域と繋がっておこうという事になると思う。それに対して直接何ができるのかなと考えている。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- レザミ工芸は、コロナの前は、地域の方たちを呼んで、防災訓練をしていた。レザミ工芸は、場所もよく地域の避難所になっていた。事前にビラを配り、合図とともに炊き出しをしたり、ケガしたときの止血訓練などを自治会の人と協力して行っていた。しかし、コロナになって、間があいてしまっている。自治会長に防災訓練があったら、参加させてくださいと言っている。顔は、覚えてもらっている。(特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センター レザミ工芸)
- ajitoは、住宅地の中なので、目の前の人たちは、ajitoのことを知っている。イベントと言ってもキッチンカーを呼ぶ程度である。気軽には来てもらっているが、実際に交流できているかと言うとどうかな。駐車場まで来てもらって終わっている。事業所が開所した時には、地域の人を呼んで内覧してもらったが、それっきりである。防災訓練も自治会が行っているかは把握していない。通所は、災害が起きたら、地域に安全に返すことが目的である。(株) BISSUSS 生活介護 ajito)
- 当事者のお住まいの自治会と繋がるためには、避難行動要支援者名簿から繋がる方が早いかもしれない。名簿の方の個別支援計画を作成するのは、自治会と民生委員である。実は、2月3日のボランティアセンターの防災研修会に出席した際、社会福祉協議会の会長が、避難行動要支援者名簿から、障がいと繋がりたいと思っていることがわかった。また、関わりを持ちたいと思う自治会もあるという事がわかった。避難行動要支援者名簿から取り組みを一緒に考えていけたら良いのかと思った。いろいろな視点や方向から考えられると良い。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- 名簿も本人が同意した人でないと自治会や民生委員に降りてこない。そんなに多くの方が同意してくれているわけではないので、自治会も民生委員も障がいのある人がどこに住んでいるのか把握が出来ていない。高齢者だと75歳以上になれば、必然的に名簿がくる。障がいに関しては、情報がない。(厚木市社会福祉協議会)
- 避難行動要支援者名簿は、自治会、民生委員の他に同じ名簿を障がい者相談支援センターも半年に1回更新したものをもらっている。同意しない人も半年に1回同意するかしないか継続的に福祉総務課の方で聞いてくれているし、名簿に載せた方が良いと思われる人は、手上げ方式で申し込みをすれば、名簿に加えてもらえる。また、去年の9月に行った厚木市の防災訓練の予定表を厚木市の事業所向けに案内してもらったが、昨年初めて、避難行動要支援者を交えた避難訓練を行う予定になっている自治会もあった。(厚木市障がい者基幹相談支

援センター)

- ・自治会長によっても違う。理解がある方だと親身になって地域にこういう事を広めたいと言ってくれるが、その方が代わると今までの話がなかったことになってしまうことがある。(社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)
- ・自治会でも避難行動要支援者名簿に載っている人から支援すると言っている。(特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸)
- ・名簿に載っている人からそれを活かして自治会の避難訓練に参加してもらうことからだと思う。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ・以前、みんなのみらいから、避難所で過ごすことが難しいから、事業所でどうにかするしかない障がい者の方を多く支援していると、聞いたことがある。その後、防災対策チェックリストは書いていますか。(厚木市障がい福祉課)
- ・そこまで親と頻繁に連絡を取り合っていないので、各家庭に任せているのが現状である。こちらから、アピールはしていない。自分から記入できるメンバーは少ない。1年に1回、事業所で防災訓練を行っているが、ヘルメットも自分でつけられない利用者もいる。正直、身になっているとは何とも言えない。災害になったら、家族に任せる感じになる。どういう状況かは、なってみないとわからない。(厚木市障害者福祉事業連絡会 みんなのみらい)
- ・来年度は、防災対策チェックリストの改訂と啓発用のチラシと研修にしたらどうか。神奈川工科大学では、防災対策チェックリストの作成の他に何をするか。神奈川工科大学にレクチャーしてもらいたいことがあれば、大学にリクエストしたいと思う。(厚木市障がい福祉課)
- ・実際に講義を受講するよりも実技をやりたいと、アンケートにあった。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ・防災食の代わりに普通に食べているものを防災食にしている。栄養価の高いものを備蓄している。(社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)
- ・家にあるもので代用や知恵。応用編などを教えてもらう。災害用トレイの組み立て、使い方。見るだけでも違う。ちょっとした知恵。(株) BISSUSS 生活介護 ajito)
- ・施設見学と防災対策チェックリスト作成に実践的な講義だと詰めすぎである。一昨年もそうだった。対象者はどうするか。(厚木市障がい福祉課)
- ・神奈川工科大学の施設見学と防災対策チェックリスト作成と実践で役立つ講義(食事、防災グッズ、トイレの汚物処理など)と日を分けて開催する。実践講義は、ボランティアネットワークに依頼するのはどうか。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ・対象者の案としては、地域生活サポート事業で補助金を出している通所施設にしたらどうか。通所系で毎年変えて行くのかどうか。(厚木市障がい福祉課)
- ・アンケートの中で、消火器の使い方、防災センターが意見として最初に載っていたので資料(神奈川県防災総合センター「防災情報体験フロア」)としてつけた。(厚木市障がい福祉課)

(4) その他

次年度の取り組みのまとめ(厚木市障がい福祉課)

- ・神奈川工科大学共催による研修会の継続
参加対象者：通所の事業所
研修内容：神奈川工科大学施設見学、防災対策チェックリスト
- ・災害に備えて必要な生活用品の確認や防災食に代わる物など実践研修(防災センター含め)の検討
- ・防災対策チェックリストの普及啓発は、今後も続けて行くが、地道な活動になると思う。他の会議等で防災対策チェックリストについて話題提供し、啓発をして欲しい。

令和5年度第3回防災プロジェクト会議

その他

- ・来年度の防災プロジェクト委員について、継続していただけるのか、代わる可能性があるのか。来年度に入って第1回防災プロジェクト会議を開催する前の出欠確認において、出席できる日程や時間について事前に伺うようにしたいと思っているをお願いしたい。
- ・令和6年能登半島地震石川県の支援制度や相談窓口の案内や輪島市の広報（参考資料）

以 上